



三本桜

第42号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
3月の目標： 学校生活のふり返りをしよう

卒業式 式辞

校庭には明るく温かな日の光が注がれ、草木には春の兆しを感じられます。稗田川沿いの三本桜のつぼみは今にも花を咲かせようと待ち構えています。その姿は、コロナに負けずこれまで歩み続けた卒業生の皆さんに似て、美しく感じます。

本日、高浜市長 吉岡初浩様、高浜市教育委員会教育委員 後藤恵理様、PTA会長様、副会長様を来賓としてお迎えし、ここに、令和5年度卒業式を挙行できますこと、誠にありがとうございます、心よりお礼と感謝を申し上げます。

本校を巣立つ78名の皆さん、卒業おめでとうございます。6年間という小学校生活を終えて、皆さんの心には、たくさんの思い出がよみがえっていることでしょう。楽しかったこと、うれしかったこと、悲しかったことや悔しかったことなど、全ての経験が、皆さんをここまで大きくたくましく成長させたのだと思います。

私は、皆さんと4年間、この高取小学校で学校生活を共にしました。皆さんがさまざまな場面で、「よく学び、よく遊べ」の言葉どおり、いきいきと活躍していた姿が思い出されます。また、最上級生として、かがやき集会 全校の歌をはじめ、委員会活動やクラブ活動、縦割り清掃、集団登校などの場面で、下級生をリードし、立派に責任を果たしてくれたことも忘れられません。特に、5月の運動会では、徒競走で躍動感あふれる力強い走りでゴールまで一気に走り抜けた姿が目には焼き付いています。「心ひとつにチームで挑め」では、ボールを運んだり障害物を越えたりする中で、声をかけ合い、工夫をしながら、仲間と協力して駆け抜ける姿が見られました。何よりも、演技前に各チームが発表した応援のパフォーマンスは、さすが最上級生、声や体の動きを合わせた迫力ある表現は、運動会の圧巻で観客を魅了しました。

皆さんのこの1年の姿は、金メダルに値します。皆さんが残してくれたよい姿は、高取小学校のよい伝統となり、下級生へと引き継がれていくことでしょう。

さて、昨年夏に、ジブリの映画「君たちはどう生きるか」が大ヒットし、先日はアカデミー賞を受賞しました。このタイトルは、1937年に吉野源三郎さんが書いた同名小説「君たちはどう生きるか」に由来しています。その中に書かれていることを、はなむけの言葉として贈ります。それは、主人公のコペル君に向けて、叔父さんが話す、次のセリフです。

もしも君が、学校でこう教えられ、世間でもそれが立派なこととして通っているからといって、ただそれだけで、言われたとおりに行動し、教えられたとおりに生きてゆこうとするならば、いいか、それじゃあ、君はいつまでたっても一人前の人間になれないんだ。

子供のうちはそれでいい。しかし、もう君の年になると、それだけじゃダメなんだ。肝



【卒業式予行のようす】

心なことは、世間の目よりも何よりも、君自身がまず、人間の立派さがどこにあるか、それを本当に君の魂で知ることだ。

そうして、心底から、立派な人間になりたいという気持ちを起こすことだ。いいことをいいことだとし、悪いことを悪いことだとし、一つ一つ判断をしてゆくときにも、また、君がいいと判断したことをやってゆくときにも、いつでも、君の胸からわき出てくるいきいきとした感情に貫かれていなくてははいけない。

繰り返して言うけど、君自身が心から感じたことや、しみじみと心を動かされたことを、くれぐれも大切にしないではいけない。それを忘れないようにして、その意味をよく考えてゆくようにしたまえ。

今からおよそ90年前の小説ですが、この一、二年の間に、AIの進歩により、一瞬にして文章や架空の映像の作成ができるようになったことを考えると、私は、まさにこのセリフがこれからの時代では、最も大切なことを示している気がしてなりません。

今後、情報過多の時代に生きる皆さんには、今の大人よりも、より寛容で、人間らしく生きるための豊かな感性が求められます。どうか、高取小学校で身につけた「問う力」をさらに磨き、何事も「自分事」として深く考え、人の心に寄り添える人になってください。皆さんの、その優しさと吸収力、そして沸々と湧き出るそのエネルギーがあれば大丈夫です。これからの人生、胸を張って歩いていってください。

最後に、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。この6年間で立派に成長されたお子様の姿をご覧になり、さぞかし感慨もひとしおのものがおありだと、拝察いたします。この6年間の長い間、本校にお寄せいただきました温かいご支援・ご協力に対しまして、心から感謝とお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

結びに、この式場に集う人々と高取小学校にご縁のある全ての方々のご健勝、ご多幸を祈念し、私の式辞といたします。

令和6年3月19日 高浜市立高取小学校長 中井滋

小学校生活最後の給食（6年生）

【献立】とりめし、牛乳、厚揚げのふくめ煮、豆苗と大根のうめサラダ、キャベツのかき玉汁、セレクトデザート

この4年間、給食は、全員が前を向いて静かに食べる黙食でした。はしと食器の触れる音が聞こえてくることもありました。しかし、一昨年度から放送委員会をはじめ各委員会や児童会の子どもたちが、工夫しながら音楽放送をしています。ときには各委員会や児童会の活動の様子を、ときにはテーマを設定したこだわりのある内容を、エピソード等を交えながら放送をしてくださいました。コロナ禍ではありましたが、「将来を豊かにたくましく拓く高取っ子」が育っていると感じています。



【3月15日の給食】

すごいぞ、児童会！

ペットボトルのキャップを集め、その売却益がワクチンの購入費に充てられる「世界の子どもたちにワクチンを運動」に取り組んでいた児童会が目標としていた5万個のボトルキャップを集め、回収者と樹脂メーカーの間に立つ「フジイ化工」（安城市）に寄託しました。収集数は57,104個、ポリオワクチン66人分、CO₂削減量418kgになります。ご家庭での多大なるご協力に感謝します。



【フジイ化工のHPより】